

「歴史的資源を活かしたまちづくり」 提言素案

神戸には、様々な時代の史跡から伝統文化まで、市内全域に歴史的資源が豊富にある。本委員会では今年度、下谷上農村歌舞伎舞台、西国街道、湊川神社、花隈城跡について実地視察を行ったが、市内にある歴史的資源には観光資源として活用されているものがある一方で、市民や市職員にもその価値があまり認知されていないものが多くあると感じている。現在、市として歴史遺産の認定や産業遺産、土木遺産の観光コンテンツとしての活用などを進めているのは理解しているが、どうしても個々の取り組みにとどまり、神戸市全体としての魅力を十分に発信できていないのではないかと感じる。今後は、市が主体となって市内に点在する歴史的資源の効果的な活用を検討し、神戸のブランド力を高めるような施策に反映していくべきと考える。

市全体で一体的に神戸独自の自然や文化と歴史的資源の魅力を積極的に発信していくことで、市民にはシビックプライドの醸成を、対外的には観光誘致を促し、地域の活性化や持続可能なまちづくり、さらには新たな神戸の魅力の発見や創出につなげていけるよう、本委員会として以下について提言する。

1 産学官民の連携による協議会の創設

歴史的資源を活かしたまちづくりを行う場合、行政だけでなく市民、事業者、専門家のほか、神戸にゆかりのある人などを含めて多様なステークホルダーの存在を意識する必要がある。

広島市で活動する「まちなか西国街道推進協議会」という団体は、10年後、20年後の未来を見据え、西国街道の歴史・文化を後世に残していくため、様々な背景を持つ地域住民や有識者、行政等が集まり、課題や情報を皆で共有しながら、互いに知恵を出し合って活動しているとのことであった。その活動は、様々なイベントの開催や関連商品の開発にとどまらず、西国街道の歴史等を次世代に伝えるための出前授業や、道路整備等での市との連携（マンホールやサインボードの共同制作）など多岐にわたり、同じように西国街道を有する神戸でもぜひ採り入れたいアイデアが多くあった。

神戸でも、貴重な歴史的資源を活かすまちづくりにあたって、産学民の各分野の知見を直接的に市の施策に反映させる仕組みを作るため、市主導のもと、「(仮称)神戸歴史資源活用協議会」を創設していただきたい。

市が設置する協議会には、学識経験者や地元代表のような方が参加する事例が多いが、地域の歴史や文化を活かしたまちづくりについて協議する際には、郷土史家や、地域の歴史愛好家、観光案内ボランティア等の市民グループ、NPO 等との協働が欠かせない。主要なテーマについては部会を設置することとし、市の政策や計画を追認する場ではなく、コーディネーターを配置して、それぞれの立場や視点から積極的に意見交換や具体的な提案を行う場としてもらいたい。

〔協議テーマ例〕

①歴史的資源の活用戦略

歴史的資源を活かしたまちづくりで神戸の魅力を積極的に発信することで、観光客の増加だけでなく、地域住民に自分の住む地域の歴史的資源を知ってもらい、地域への帰属意識やシビックプライドを感じてもらうことも期待できる。そのための仕掛けづくりとして、例えば、市内に点在する史跡をストーリーでつないで巡る神戸再発見ツアーや、何年もかけて市内全ての歴史的資源を訪ねて回るウォークラリーを企画すれば、あまり認知されていない歴史的資源も活用することができ、観光客だけでなく市民にも楽しんでもらえるのではないかと感じる。様々な時代の歴史的資源をテーマやストーリーでつなげば、時代を行き来しているようにも感じられ、様々な時代の神戸を何度も楽しむことができ、より魅力的な観光資源になる。また、神戸の歴史について事前知識のない外国人観光客にも十分楽しんでもらえるための仕掛けも必要である。国や宗教など属性にも留意しながら、近世までのいわゆる日本らしいものと、近代以降の、開港に代表されるモダンなものが混在する、神戸独自の特徴を分かりやすく示し、関心を持ってもらうための工夫がもっとできないか。情報の発信方法についても、受け取る側の属性・年代に合わせ、書籍からデジタルサイネージ、ユーチューブ等の動画配信、AR や VR の活用まで幅広く重層的に取り組むべきである。

②西国街道を活用したまちづくり

神戸には西国街道という素晴らしい歴史的資源があるが、現在では街道が途中で分断されるなど、街道らしい街並みが残っていない「見えない街道」となっている。西国街道は東灘区から垂水区まで神戸市を東西に横断しているにもかかわらず、現状では、一部の区間での取り組みはあるものの、市民にもあまり浸透しておらず、観光資源として十分に活用できていないと感じる。そこで、当時の街道の様子や周辺の街並み、人々の暮らしを、市民や観光客に実感してもらえるよう、例えば、絵や地図による街並みの再現展示や、QR コードや AR、VR の活用、特別な舗装やサインボード、マンホールの設置などにより、市内全域で街道の可視化に積極的に取り組んでいくべきではないか。同時に、広島など西国街道を有する地域と広域的に連携して、共通した情報発信を行うことも検討すべきである。

また、こうした課題解決のため、協議会に西国街道部会を設置し、関心を持つ学生や地域住民、歴史愛好家等にも参加してもらって企画を検討する場としていただきたい。市内の大学・短大と連携することで、新たなアイデアが生まれることが期待できる。

③戦災等に関する歴史の継承

広島では、通常の平和教育に加え、被爆体験や平和への思いを後世に伝える語り部「被爆体験伝承者」の養成や、毎年8月の被爆電車の特別運行など、平和について考えてもらう取り組みを行っている。神戸でも戦災等の資料を市のウェブサイトで公開しているが、歴史を風化させることなく、次世代の子供たちが平和の尊さについて学べる様々な取り組みに前進させていくことが必要だと考える。

また、戦災や震災の際に地域でどのような被害が出て、どう対応したのかを知ることで、未来のまちの安全にどんな対策が必要なのかを知ることができる。過去の歴史を未来の地域課題解決につなげられるような発信方法を検討していただきたい。

④大河ドラマなどを契機とした歴史的資源の活用

神戸では地理的な環境から、歴史上、時代の転換点になるような戦いや事件が頻繁に起こっており、大河ドラマで取り上げられるものに神戸が関わっていることが多い。大河ドラマは、放映と同時に関連地域で観光需要が喚起され、直接的な集客に結びつくなど影響が大きいと言われている。市民にとっても神戸の歴史を再認識する機会となり、観光資源として、放映終了後も継続的な集客に結びつけるためには、市として一過性ではなく重層的な戦略を立てて取り組んでいく必要となる。同様に、朝ドラなども効果的に活用することで神戸の魅力を発信できるはずであり、積極的な観光戦略の検討が求められる。

⑤歴史的建築物の活用

近年、全国で歴史的建築物を活用したまちづくりが進んでいる。神戸でも歴史的建築物の保存・活用に取り組んでいることは理解しているが、空き家対策も見据え、所有者だけでなく、NPO や民間等による利活用も支援するなど、柔軟に取り組んでいくべきである。市民の神戸の歴史を守りたいとの思いを踏まえつつ、民間等による利活用を組み合わせることで事業性を確保し、持続可能なまちづくりを支援する仕組みを検討していただきたい。神戸独自の歴史的建築物を大切に次の世代に引き継いでいくとともに、市外からの集客などにも結びつくよう有効活用していく方策をさらに検討して必要がある。

⑥デジタルアーカイブの開設

→「2. デジタルアーカイブ「神戸歴史図書館」の開設」へ

2. デジタルアーカイブ「神戸歴史図書館」の開設

現在、歴史遺産、土木遺産など多くの歴史的資源が、神戸市のウェブサイト内で紹介されている。これらの情報は担当する所管ごとに、文化財保護や観光への活用などそれぞれの目的に沿った情報発信となっている。

歴史的資源を活用して神戸の魅力を発信していくために、歴史的資源の情報を一元化し、様々な時代の史跡や伝統文化といったテーマから、開港と外国人、戦災・震災（平和教育）といったテーマまで、神戸の歴史的資源に関する情報を集約したデジタルアーカイブ「神戸歴史図書館」を歴史公文書館内に開設していただきたい。あまり知られていない歴史的資源の発掘や発信には郷土史家や歴史愛好家、地域住民等の協力を仰ぎ、資料や写真の掲載だけでなく、関係者のインタビューや、郷土史家等による市内の史跡ガイド等も動画で発信することで、より幅広く市内の

歴史的資源の魅力を伝えられる。また、利用者が双方向に交流できる仕組みを作れば、新たな活動が生まれることも期待できる。アーカイブの構成は、観光資源としての魅力を発信するだけでなく、未来に向けた地域の課題解決にもつながるような発信方法を工夫する。

現状では、様々な場所に神戸の歴史文化に関するコンテンツが存在しているため、それらを集約し、国内外の誰でもどこからでもアクセスできる形にすることで、観光客はもちろん市民にとっても新たな神戸の魅力に関心を持ち、その地域を訪れようというきっかけづくりになるのではないか。

[その他の収録テーマ例]

①神戸市電

神戸市電は、市民や鉄道ファンだけでなく、一般の観光客にとっても魅力的な観光資源になる。交通局の保有する資料等に加え、神戸市民や鉄道ファンにも情報を募り、デジタルアーカイブとして発信すべきである。また、2024年の神戸・大阪間鉄道開通150年に合わせて、市内で保存されている市電本体の一般展示や、市電のツートンカラーにラッピングした市バスが市電路線を走るなどのイベントを企画し、その様子もデジタルアーカイブで紹介していただきたい。

②鉄道遺産

神戸・大阪間鉄道開通150年に合わせて、日本で残る最古の旋回橋のある和田岬線や、開通当時欧米でも珍しかった川底トンネル、同じく当時、住吉駅が有馬温泉の最寄駅だったことから今も住吉周辺に残る地名や道標など、様々な鉄道遺産をデジタルアーカイブで紹介し、観光資源としてアピールしていただきたい。

③土木遺産

神戸には世界に冠たる土木の文化遺産が多くある。市のウェブサイトでも市内の土木遺産を紹介しているが、市民にもあまり知られていないものが多い。各文化遺産をストーリーとともに編集し直したものをデジタルアーカイブで紹介し、国内外にもっと積極的に発信していくべきである。